

改版履歴

版数	日付	Author	内容
R1.0	2024/1/6	株式会社 アルテシード	新規作成。

LogStream Viewer – システム・ロガー・ログ・ストリーム・ビューワ

プログラム概説

LogStreamViewer は、z/OS のシステム・ロガーのログ・ストリーム内レコードを表示する REXX exec です。

システム内に定義されたログ・ストリーム名をパネルにリスト表示して、選択されたログ・ストリームの内容を ISPF ブラウザー (BROWSE) もしくはビューワ (VIEW) で表示することができます。

提供されるファイル

ファイル名	用途、内容
LogStreamViewer.pdf	プログラム・マニュアル
LOGVIEW(R1.0).txt	REXX exec ソース・モジュール
LOGVPNL(R1.0).txt	ISPF パネル定義メンバー
LOGREAD.txt	REXX exec ソース・モジュール (代替用)
QLOGNAM.txt	REXX exec ソース・モジュール
DDALLOC(ML000).txt	REXX 関数ルーチンのソースモジュール兼アSEMBル用 JCL (MLnnn の nnn はプログラム修正レベル)

インストール手順

- ① DDALLOC(MLnnn).txt ファイルを、MVS 内の任意の区分データセット (JCL ライブラリー等) のメンバー「DDALLOC」として テキスト・モード でアップロードします。(アップロード先のデータセットは RECFM=F または FB、LRECL=80 でなければなりません) このファイルは、REXX exec 内で使用している関数ルーチンのソースコード・モジュールです。
- ② アップロードしたメンバー「DDALLOC」をサブミットして、関数ルーチン DDALLOC のロードモジュールを作成します。サブミット前に JOB ステートメントを導入先環境に合わせて正しく設定します。また、PROC 実行時の変数 LLIB にロードモジュールの格納先データセットを指定します (メンバーの 22 行目参照)。ロードモジュールの格納先データセットは、任意のロードモジュール・データセットでかまいません。DDALLOC ルーチンには APF 許可は必要ありません。

- ③ LOGVIEW(Rn.n).txt、LOGVPNL(Rn.n).txt、LOGREAD.txt 及び QLOGNAM.txt の各ファイルを、MVS 内の任意の区分データセット (CLIST ライブラリー等) のメンバー「LOGVIEW」、
「LOGVPNL」、「LOGREAD」及び「QLOGNAM」として テキスト・モード でアップロード
します。(アップロード先のデータセットは RECFM=F または FB、LRECL=80 でなければなりません)
これらのファイルは、REXX exec として実行されるかパネル定義体として参照されます。
特に理由が無い限り、「userid.CLIST」というデータセット名の PDSE 又は PDS データセ
ットに格納することを勧めます。尚、REXX exec やパネル定義メンバーを共用の
CLIST/EXEC ライブラリーやパネル・ライブラリーに格納できるならそちらへアップロー
ドしてもかまいません。
- ④ 格納した LOGVIEW メンバー内容を、実行環境に合わせて一部修正します。

```

/* REXX */
/* z/OS System Logger Log Stream Viewer */
/* ===== */
/* This Rexx-exec submit batch job to get available Log Stream name. */
/* This is because the IXCMIAPU utility can be run under MVS Batch */
/* environment only. */
:
(36行目)
jcl.1 = "//uid"Z JOB (ACCT), &SYSUID" ←JOB ステートメントを規約に合わせて修正する。
(標準では ユーザーID の末尾に Z を付けたジョブ名で JCL がサブミットされる)
(117、118行目)
ISPEXEC "LIBDEF ISPLLIB DATASET ID('uid'.CLIST)" ←REXX exec とロード
ISPEXEC "LIBDEF ISPLLIB DATASET ID('uid'.LOAD)" モジュール格納先の
データセット名に修正する。共用の CLIST/EXEC ライブラリーやパネル・ライブラリーに格納した場合は、コメントにする。
(130行目)
ddname2 = DDALLOC('TRK', 10, 10) ←表示するログ・ストリーム内容量に応じて、
割り振りタイプを CYL にしたり 1 次量と 2 次量を変更する。

```

DDALLOC ルーチンが作成でき、LOGVIEW メンバーが登録できたらインストール作業は終わりです。

RACF 定義の確認と追加

LogStreamViewer を実行するユーザーには下記の RACF 一般リソース権限が必要です。

クラス名	プロファイル名	必要な権限と理由
FACILITY	MVSADMIN. LOGR	READ 権限 (ログ・ストリーム名を得る為の IXCMIAPU ユーティリティーの実行に必要)
SDSF	ISFCMD. FILTER. OWNER	READ 権限 (IXCMIAPU ユーティリティーの実行結果の読み取りに必要)

上記プロファイルは、個別の定義ではなく MVSADMIN.* や ISF*.** のような総称名で定義されていることもあります。総称名に対して権限を与えるのか、それとも個別のプロファイルを追加して権限を与えるかはシステム管理者によって管理されます。必要な RACF 権限が足りず新たに付与する場合はシステム管理者に確認して下さい。

必要な権限が付与ができない場合は、LOGVIEW メンバーの代わりにログ・ストリーム名をパラメーターで直接指定する LOGREAD REXX exec を使用できます。

REXX exec の実行 (LOGVIEW)

ISPF オプション 6 のコマンドシェル・パネルから REXX exec メンバー LOGVIEW を実行します。もしくは任意の ISPF パネルで TSO コマンドによって実行します。

▶コマンドシェル・パネル

```
===> EX (LOGVIEW)
```

▶任意の ISPF パネル

```
TSO EX (LOGVIEW)
```

実行開始後に IXCMIAPU ユーティリティのバッチ・ジョブがサブミットされ、ジョブの完了を待ち合わせます。ジョブの完了を検知されると SYSOUT 内容が解析されてシステム・ロガーのログ・ストリーム名が抽出されます。

```
Submitting IXCMIAPU Batch Utility to retrieve all Log Stream.
IKJ56250I JOB ZTK1Z(JOB48750) SUBMITTED
***
```

システムに登録されたログ・ストリーム名が抽出されるとその一覧リストがパネルで表示されます。ログ・ストリーム名左側のアクション欄に、アクション文字 B または V を入力できます。但し OPER ログ (SYSPLEX.OPERLOG) は選択できません。OPER ログは SDSF で参照します。

```

----- System Logger Log Stream Viewer ----- Row 1 to 3 of 3
Command ===>                                     Scroll ===> CSR
Action  LOG STREAM NAME
-----
B       APW.TESTLOG
V       SYSPLEX.OPERLOG
        SYSPLEX.USERLOG
***** Bottom of data *****

```

アクション文字 B または V が入力されると、そのログ・ストリームのレコード内容が ISPF ブラウザーまたはビューワーで表示されます。

```

Menu Utilities Compilers Help
BROWSE   SYS21239.T204528.RA000.ARTECO2.R0100033  Line 0000000000 Col 001 080
Command ===>                                     Scroll ===> CSR
***** Top of Data *****
.ëéÉ. .... l.00000001-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*
.ëéÉ. \ .... l.00000002-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*
.ëéÉ<Ø .... l.00000003-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*
.ëéÉ* .... l.00000004-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*
.ëéÉ%ñ .... l.00000005-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*
.ëéÉ@p .... l.00000006-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*
.ëéÉæ .... l.00000007-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*
.ëéÉ. .... l.00000008-ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$-ZXCvBNM<=>+?/*

```

```

File Edit Edit_Settings Menu Utilities Compilers Test Help
VIEW      SYS21239.T204541.RA000.ARTECO2.R0100034      Columns 00001 00072
Command ==> █                                          Scroll ==> CSR
***** Top of Data *****
000001 00000002ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000002 00000003ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000003 00000004ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000004 00000005ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000005 00000006ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000006 00000007ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000007 00000008ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000008 00000009ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000009 00000010ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000010 00000002ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000011 00000002ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000012 00000002ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000013 00000001ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$
000014 00000002ABCDEFGHIJKLMN0PQRSTUVWXYZ0123456789@#%$

```

スクロール、検索、行の非表示化など、ISPF ブラウザーまたはビューワーのコマンドによって操作します。表示し終わったら PF3 キーで終了します。

ログ・ストリーム名リスト・パネルで複数のログ・ストリームを選択している場合は、現在のログ・ストリーム内容の表示後に次に選択されているログ・ストリーム内容が続けて表示されます。選択された最後のログ・ストリームの表示が終わるとログ・ストリーム名リスト・パネルに戻ります。ログ・ストリーム名リスト・パネルで PF3 キーが押下されると REXX exec は終了します。

REXX exec の実行 (LOGREAD)

ISPF オプション 6 のコマンドシェル・パネルからもしくは任意の ISPF パネルでの TSO コマンドによって REXX exec メンバー LOGREAD を実行します。

```

==> EX (LOGREAD) 'logstr-name [viewer-type]'

```

パラメーター	パラメーターの意味・機能
logstr-name	値： ログ・ストリーム名 省略値： なし（省略不可：省略した場合 exec は何もせずに終了する） ログ・ストリーム名を指定します。
viewer-type	値： B または V 省略値： B ログ内容の表示に ISPF BROWSE で表示するのか ISPF VIEW で表示するのかの 選択文字。

完了コードとメッセージ (LOGVIEW)

完了コード

値	意味
0	正常終了
4	(未使用)
8	・JCL サブミット・メッセージ (IKJ56250I) が出力されなかった。
12	・ジョブ完了待ち合わせ中に SDSF から非ゼロの復帰コードが返された。 ・SYSOUT 読み込み中に SDSF から非ゼロの復帰コードが返された。

0 以外の完了コードで終了しても、コードの値そのものは画面上には表示されません。CLIST 内で実行していれば、&LASTCC 変数に完了コードが格納されますので必要なら WRITE ステートメントで表示できます。

パネル・メッセージ

INVALID ACTION CHARACTER

メッセージの意味：

無効なアクション文字が入力されました。

オペレーターの対処：

正しいアクション文字を入力します。

OPERLOG IS UN-SELECTABLE

メッセージの意味：

OPER ログは選択できません。

オペレーターの対処：

アクション文字を取り消します。

実行中に入出力エラーなどが起きた場合は、エラーを検出したシステム・コンポーネントによってメッセージが出力されます。その際のエラー・メッセージの意味や対処については、REXX、TSO/E、ISPF などの関連する IBM マニュアル等を参照して下さい。